

ロタウイルスワクチン予防接種説明書

〈ロタウイルス感染症の予防〉

ロタウイルス感染症とは？

ロタウイルスは、世界のどこでもみられる、主に5歳未満の乳幼児に多く見られる急性胃腸炎の原因ウイルスです。主な症状は下痢・嘔吐・発熱などで、ときに脱水、けいれん、腎不全を、稀ですが急性脳症などを合併する事があります。年齢にかかわらず何度でも感染発病しますが、乳幼児期での初感染が最も重症で、その後感染を繰り返すにつれて軽症化していきます。

接種について

ロタウイルスワクチンには、ヒトロタウイルスを弱毒化した経口弱毒生ヒトロタウイルスワクチン(以下、1価ワクチン。ロタリックス)とウシ・ヒトロタウイルスを再集合させた5価経口弱毒生ロタウイルスワクチン(以下、5価ワクチン。ロタテック)があります。

両ワクチンとも、ロタウイルス感染による胃腸炎を約80%予防し、重症ロタウイルス感染症の約95%を予防する効果があります。

ワクチンの種類	対象者	標準的な接種期間	接種回数	接種間隔
ロタリックス (1価ワクチン)	出生6週後から24週後までの間にある者	生後2ヵ月～出生14週6日後までの間	2回	27日以上
ロタテック (5価ワクチン)	出生6週後から32週後までの間にある者		3回	

※出生15週後以降の初回接種については安全性が確立されておらず、出生14週6日後までに初回接種を完了させることが望ましいとされています。出生15週後以降に接種を希望される場合は、医師と十分に相談したうえで接種を受けて下さい。

2種類のワクチンがあります

ワクチンは2種類あり、同様の効果があります。2種類のワクチンは接種回数が異なり、互換性はないため、原則として同一ワクチンで、決められた回数の接種をしましょう。

竹富町では、特段の理由がある場合を除き、ロタリックスにて実施しております。

※里帰り先の医療機関でロタリックスの取り扱いが無いなど、ロタテックを接種し、竹富町でもロタテックの接種を希望される場合には竹富町役場健康づくり課までご連絡ください。

副反応について

ロタウイルスワクチンの1回目接種後1週間以内には、腸重積症を発症するリスクが上がります。ロタウイルスワクチン接種によるリスク(腸重積症などの副反応の発症)とベネフィット(重症ロタウイルス感染症の予防)を比較し、ロタウイルス感染症を防ぐ方が子どもたちにとって有利であると考えられています。ロタウイルスワクチン接種後に周期的な不機嫌、腹痛、反復性の嘔吐や激しい泣き、血便のうちどれか一つでも認められたときは、腸重積症の可能性を考え、速やかに医師の診察を受けるようにしてください。

医療機関から副反応疑い例として報告されたうちの重篤症例の発生頻度は1価ワクチン(ロタリックス)は0.0033%、5価ワクチン(ロタテック)は0.0019%です。